

イニシア千住曙町

防災協議会 News

創刊 1号
2012/02/11



日ごろは自治会・理事会に御協力いただきありがとうございます。

管理組合理事会と自治会との合同組織の「防災協議会」の広報を今後、不定期で発行していきます。

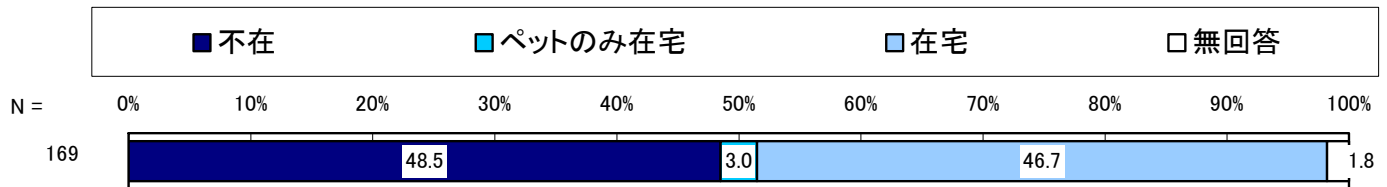
震災アンケートまとめ

創刊 1号は、大変遅くなりましたが、先の震災アンケートのまとめをお知らせします。

回答数は 169 世帯で、全戸の 1/3 でした。ご協力ありがとうございました。

(在宅率について)

Q4. 震災当時(3月11日午後2時43分)の在宅状況

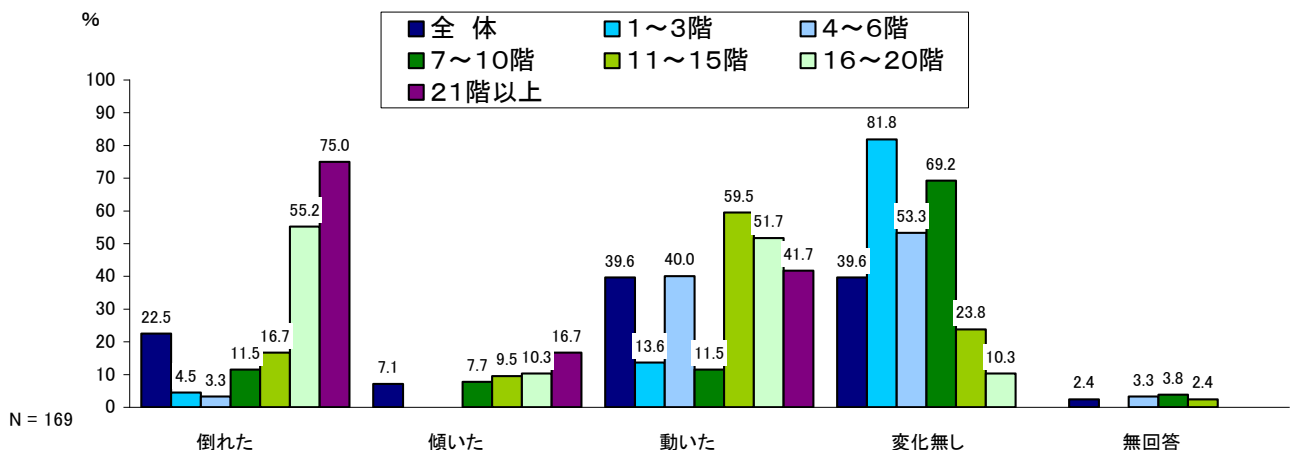


当日は平日の昼間で、このように**在宅家庭は半分**でした。留守家庭では災害発生を予防しなければいけません。地震時の罹災の最大原因は火災です。**外出前には火災発生に十分注意ください。**

しかし、これが在宅の場合には違います。高層マンションでは揺れが長時間になります。火の始末で移動する時に転倒する家具による負傷の危険性があります。**火の始末より先ず身の安全確保です。**

(家具の転倒について)

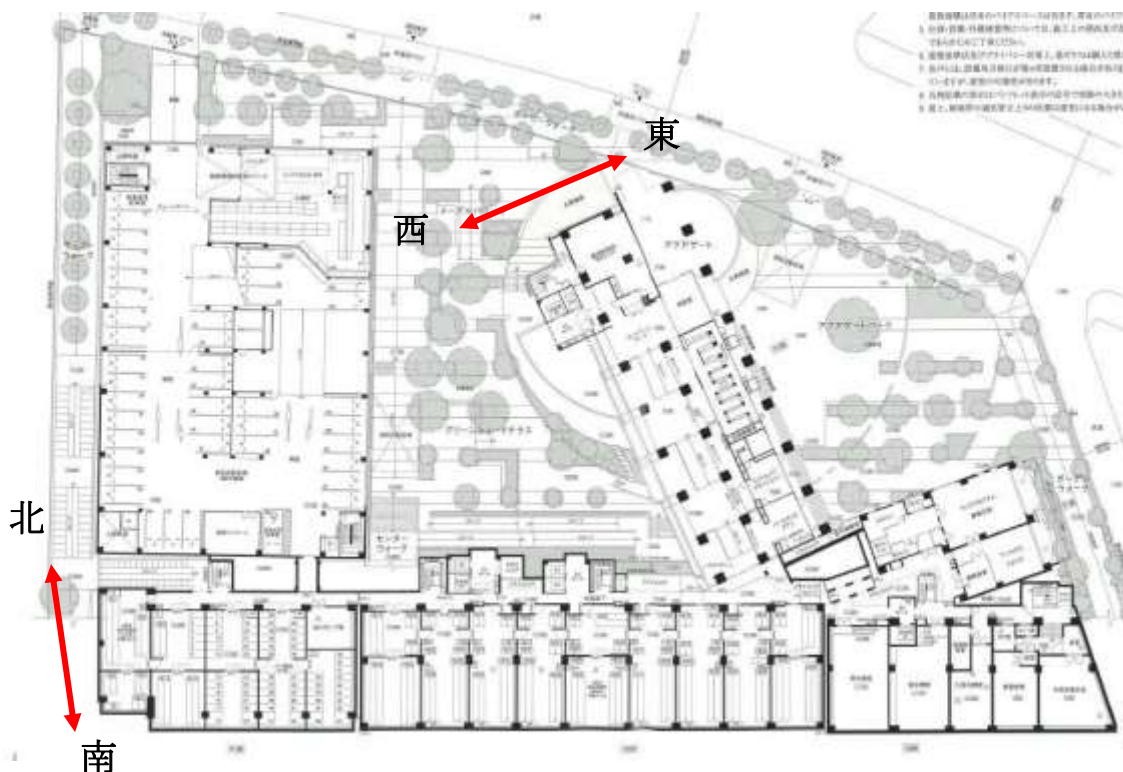
Q5①本棚、食器棚、大型家電製品の状況



大型家具の転倒・稼動状況を見ますと、中層階から上が多いようです。今回の地震は揺れの時間が長く、高層階ではだんだんと揺れが増幅され、ついに転倒したと思われます。

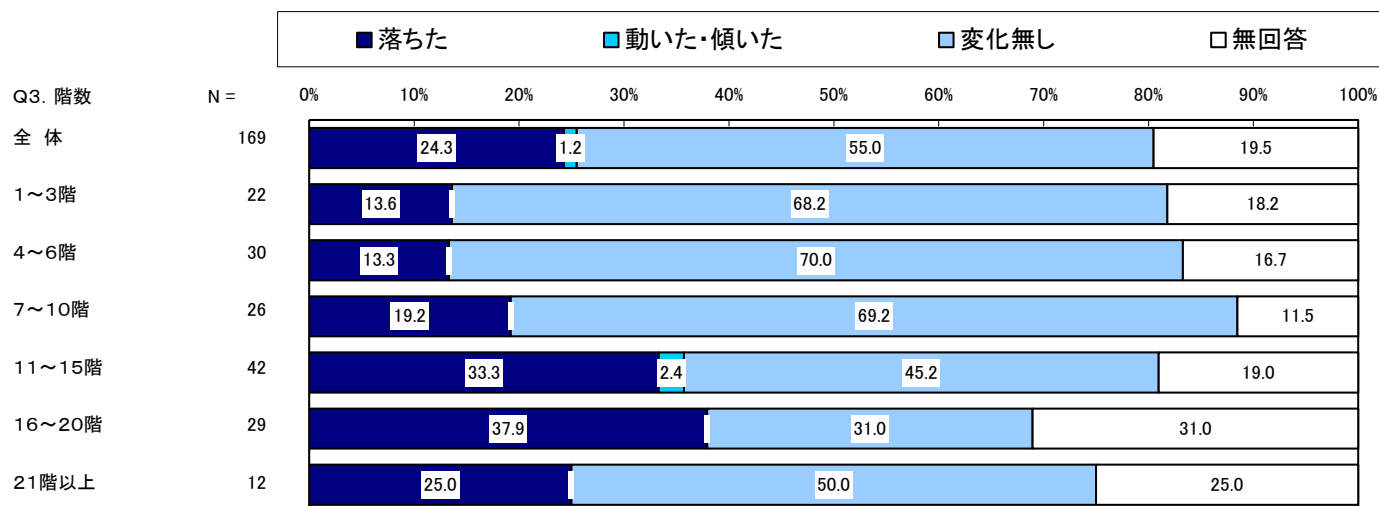
当マンションは平面形状が横長なのが特徴です。正方形のタワーマンションと違って、短辺の方向に揺れやすくなります。(たとえば、R2棟では南北、P2棟では東西の方向です。)家具も短辺の方向に揺れやすいので、室内では**この方向に短辺を配置しないよう**にすれば、家具の揺れは少なくなります。

(R棟では東西に長手方向を向け、P2棟では南北に向けると良いと思います。ただし、P1棟はどちらとも言えません。)



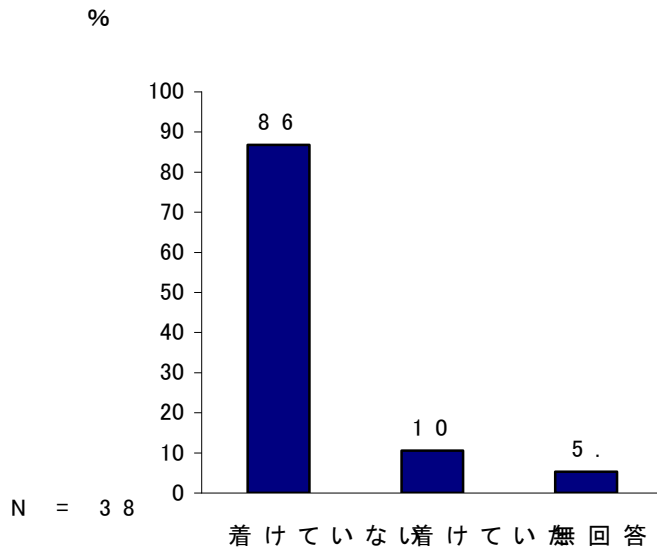
次のデータからもはっきりと、中高層がよく揺れたことが分かります。

Q5②壁にかけてあるものの状況

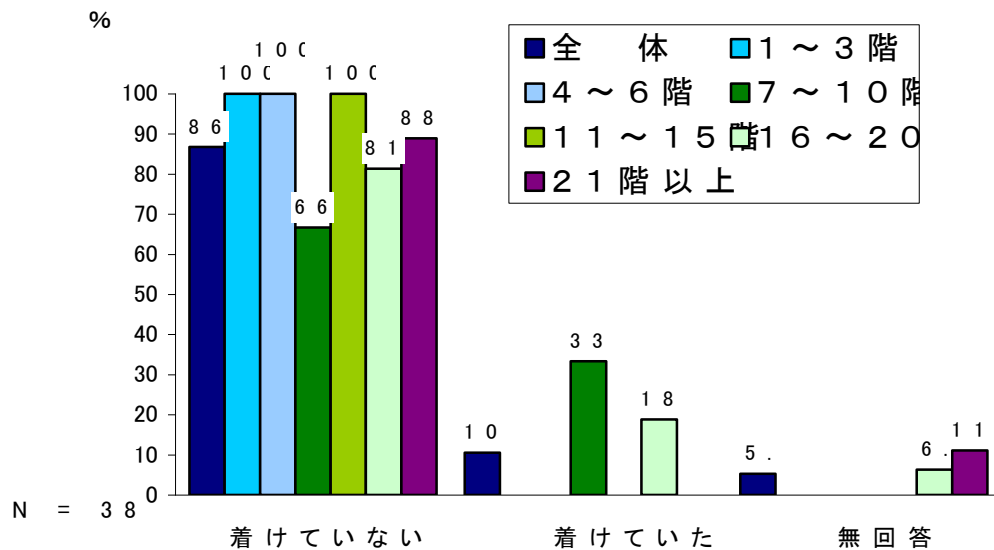


転倒防止器具の装着状況はどうだったでしょうか？転倒した家具の9割近くが装着していませんでした。

Q6. 震災で倒れた大型家具への転倒防止器具

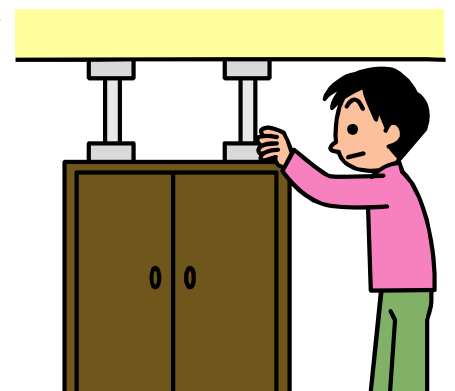


Q6. 震災で倒れた大型家具への転倒防止器具の装着も



データを階層別に見たところ、一部の階で装着していても転倒した特例もありますが、装着していればほぼ転倒を防止できます。

突っ張り棒タイプは、デザイン上受け入れ難いものがあります。また、戸境壁は共用部ですので、釘やねじが打てません。そのため転倒防止器具を装着されていない方も、いらっしゃいます。しかし、家庭内の罹災原因は火災とともに多いのが、転倒家具の下敷きです。**身の安全を守るためには、必ず防止器具をお付けください。**家具前面底部に敷くタイプもあります。是非ご検討ください。



(要支援者について)

アンケートに併せて災害時に支援を必要とされる方をお聞きしましたところ、5 名の方から、お申し出がありました。ありがとうございます。

防災協議会でこの情報の活用方法を以下としました。

- ・ 情報は、管理事務室フロントマネージャと警備員さんおよび自治会長だけが厳重に保管しています。
- ・ 災害発生時は、管理事務所から要支援者宅へインターホンで呼びかけ安否確認を行います。
- ・ インターホンで異常が確認された場合は、近接住戸の方にインターホンで支援を要請します。
何卒、ご協力ください。
- ・ フロントマネージャ、警備員はマンション内の安全状況確認を優先させるため、巡回点検を行います。その際に順次、要支援者宅を訪問して確認を行います。
- ・ 支援に当たっては、管理組合理事、自治会役員等も可能な限り支援に駆けつけます。



要支援情報をまだ提供いただいていない方や新たに必要になった方は、フロントマネージャに是非ご相談、お申し出ください。お待ちしております。

近接のみならず、皆さんで支援の必要な方にご協力をお願いします。

第 1 号はここまでとしますが、震災アンケートのまとめは次号も続きます。マンションで準備すべきものについてまとめたいと思います。

以上